Gallery

日本プロセス化学会　2026ウインターシンポジウム

医薬研究開発コンサルテイング　代表取締役・創薬パートナーズ　パートナー　橋本光紀

今年のウインターシンポジウムは，アクトシティ浜松で開催された第5回国際シンポジウム（ISPC2026）の盛況の熱気のまま場所をタワーホール船堀に移し12月4日（金）に開催される。当学会は2001年11月に発足し，2002年7月に創設記念シンポジウムを開催して以来，毎年夏と冬にシンポジウムを開催しており，さらに08年，11年，15年，19年，26年のサマーシンポジウムを第1〜5回国際シンポジウムと位置付け，世界各国からプロセス化学のトップを招待講演者として招くとともに世界に参加を呼び掛けてきた。国内外から1000名近い参加者があり国際化の流れに沿った，また企業のプロセス開発に取り組む研究者の貴重な情報交換の場として熱気を帯びた議論が展開されている。

日本プロセス化学会の設立と活動

当学会は産学の多くの機関に分散しているプロセス化学研究者を横断的に結び，学術的かつ学際的立場からプロセス化学の水準を飛躍的に向上させるべく，趣意に賛同する多くの企業と研究者が参加し，研究者相互の親睦と技術の切磋琢磨，成功事例のみならず，特に一般では知りえない失敗事例の共有も大切にし，既存の研究会や学会とは異なるユニークな学会としての運用を目指してきた。企業の中にあっては，外部のプロセス開発関連情報は中々入手しがたく，また発表の場も少ないことから有用な研究成果がうまく活用されているとは言いがたい。サマーシンポジウムやウインターシンポジウムのほかにも泊まり込みで行うラウンジ，地域ごとの特性を生かしたフォーラム，当学会で出版した本をテキストに使用して行う出前講義と，プロセス化学をより多くの人に理解してもらい，企業や研究室にとってより有益なプロセス開発を行うための基礎講座的役割を果たしている。

2026ウインターシンポジウム

2026年12月4日（金）にタワーホール船堀で開催されるウインターシンポジウムは，サマーシンポジウムと異なり1日だけの開催であり，午前と午後の部で合計6件の招待講演が予定されている。

午前の部は日本プロセス化学会特別企画であり，若い研究者やプロセス化学に興味をもつ学生向けに，プロセス化学領域で活躍される杉本直樹氏（国立医薬品食品衛生研究所）および原祐樹氏（メトラー・トレド）による教育講演で「分析とプロセス化学」に関して話題提供してもらう。

午後の部では，2026サマーシンポジウムにてJSPC優秀賞を受賞された3名（企業2，アカデミア1）の受賞講演と4名（企業3，アカデミア1）の招待講演が予定されている。アカデミアからは「オリゴ核酸の新しい合成化学の開拓を目指して」，一方企業からは「機能性化学品の連続精密生産を目指して」，「抗体薬物複合体の原薬製造プロセス開発」，「ニトロソアミンとの攻防」と，プロセス化学領域に軸足を置く話題について最新のトピックスも含めて講演いただくことになっている。

また，講演終了後には，情報交換会を開催予定である。若手の参加者が増えている現象は喜ぶべきで，できるだけ多くの参加者が集えるように配慮している。

今回の世話人である有友啓一氏（田辺ファーマ（株））と和田猛氏（東京理科大学）からは，「新たな価値の創出が求められる現代において，医薬分野でも従来の枠に収まらない，モダリティの医薬品，先端のサイエンスとテクノロジーを活用した製造方法，今までにないレベルでの品質管理などQ（Quality），C（Cost），D（Delivery），E（Environment），S（Safety）に対して革新していくことが望まれており，プロセス化学者への期待が年々高まっております。今年のウインターシンポジウムでは，午前に2つの教育講演，午後は様々な分野で最先端の際立った成果をあげていらっしゃる研究者4名のご講演と，ISPC2026で優秀賞を受賞された3名の受賞講演を予定しております。また，本シンポジウムでは，人と人の交流も重視しており，多くの参加者が集う情報交換会は年々盛り上がりを増しております。本シンポジウムを通じて，プロセス化学が果たすべき役割や課題について議論を深め，次世代の研究および産業の発展につながることを切に願っております」と意気込みが感じ取れるコメントが届いている。

プロセス化学の主な目的は，スケール

日本プロセス化学会　2026ウインターシンポジウム

会期　2026年12月4日（金）　**会場**　タワーホール船堀

第1部　教育講演　当会特別企画：分析とプロセス化学

教育講演1．杉本直樹（国立医薬品食品衛生研究所）「NMR分析は「目で読む」から「計算で読み解く」時代へ―qNMR，RMS，QMSAが変える分析のかたち―」

教育講演2．原　祐樹（メトラートレド）「Process Analytical Technology（PAT）の進展と近年の応用事例」

第2部

招待講演1．内川　治（東和薬品工業）「ニトロソアミンとの攻防」

招待講演2．小野澤俊也（産業技術総合研究所）「機能性化学品の連続精密生産を目指して」

招待講演3．櫻谷憲司（第一三共）「抗体薬物複合体の原薬製造プロセス開発」

招待講演4．田良島典子（徳島大学）「オリゴ核酸の新しい合成化学の開拓を目指して」

JSPC優秀賞　講演

アステラス製薬，エーザイ，中外製薬

JSPC学生優秀賞　授与式

岩手大学，千葉大学，日本大学

※情報交換会はタワーホール船堀で開催予定です。

アップしていく段階でいかに効率的で経済的，操作しやすい製法や連続反応，さらには環境に配慮した製法を作り上げていくのかである。各企業それぞれがknow-how的技術を持ち，企業の強みとして技術の伝承をしてきたが，グローバル化の進んだ現在では，情報開示が進み，必要とする情報をいかに効率的に収集して現場にフィードバックし，有効活用させることができるかが問われるようになった。そのためには，当学会のように現場で働く人が集まるような学会で直接情報交換を行い，生きた情報を掴んで仕事に生かしてもらうことが何より重要といえる。特に，地政学リスクに伴う原材料入手法，トランプ関税や自国ファーストによる市場の混乱は，プロセス化学とは直接関係がないように思えるが企業にとっては極めて重要な問題で，思わぬ落とし穴があるかもしれず気になる現状である。経験者やまだ経験の浅い人が一体となって議論している光景は当学会の特徴であるが，今回の招待講演者の演題はそれらのヒントがいろいろ示されるような興味ある内容となっている。

日本プロセス化学会の活動

今回は2026年12月11日(金)，12日(土)に東レ総合研修センターで開催される「プロセスラウンジ」について説明したい。

「プロセス化学ラウンジ」は参加者が文字どおり議論に参加しやすいように参加人数を制限し，ざっくばらんな発表や意見交換を通して人的交流と情報交換を促すインフォーマルな場を提供するものである。失敗談，学会・論文発表などに現れない裏話，フォーマルな場では光の当たりにくいノウハウなどが講師や参加者間の交流を通じて得られる場であり，講師の先生から興味あるお話を聞き親睦を図りながら深夜までデスカッションするのが恒例となっている。今回の講師は以下の5名である。

講師（順不同）

・鳶巣　守先生（大阪大学）
「分子骨格をリプログラミングする新反応開発」
・小椋章弘先生（慶應義塾大学）
「低エネルギー・低廃棄物な有機合成を目指して」
・椴山儀恵先生（分子科学研究所）
「有機合成化学者が挑む自動有機合成とデータサイエンス」
・山本裕平氏（武田薬品工業）
「Lessons Learned through Failure in Pharmaceutical Process Development」
・渡邉　徹氏（カネカ）
「酵素反応を用いた低分子医薬品中間体の製造プロセス開発」

おわりに

当学会では，発足以来，年2回のシンポジウムと今回紹介したような少人数が泊り込みで行うラウンジや地域ごとの特性を生かしたフォーラム，さらには当学会で出版したテキストを使用して行う出前講義と，アイデアに富んだ企画で年々発展を遂げている。当学会の強みはプロセス化学の現場に身を置く化学が好きな人の集まりであり，日々の成果が一層彼らを励まし元気付けていることである。創意と工夫はどの分野にも必要だが，直接対話する機会が多いこの学会ならではの特徴が参加者に多くのヒントを与えている。AIの活用による情報収集は容易になってきているが，安易な思い込みは失敗の基でありknow-how的内容は直接対話でしか得られない貴重な情報である。医薬品のプロセス化学に貢献できる土壌を作り出すことに注力していくのが目標で，成功体験だけでなく本来知りたいことは失敗体験による貴重な教訓のはずである。日常業務で溜まった疑問，質問を本シンポジウムの有効活用で明日へのステップとしてもらえれば，主催者としても開催した甲斐がある。会長や担当理事のコメントからも並々ならぬ意気込みがうかがえ，企業の特に若手の熱意も感じられる。ぜひウインターシンポジウムに参加して旧交を温め情報収集をしてもらえればと思う。


秋山会長

日本プロセス化学会会長
秋山隆彦（学習院大学　教授）

7月に浜松で開催した第5回国際シンポジウム（ISPC2026）は，おかげさまで国外11ヵ国からの参加者も含め，800名以上の参加者で満員御礼となり，情報交換会も含め盛会となりました。参加していただいた皆様に心より感謝申し上げます。日本化学会，有機合成化学協会との連携により，学生に対するポスター賞も企画し，国際的な研究交流，産学連携および若手人材育成の良い機会となったと考えております。

本年のウインターシンポジウムは，12月4日(金)にタワーホール船堀において開催いたします。午前中の第1部の教育的な講演，午後の第2部は4件の招待講演および2026 JSPC優秀賞受賞式および3件の受賞講演が予定されています。情報交換会も開催いたしますので，討論，相互交流そしてビジネスの場としてぜひご活用いただき，プロセス化学のさらなる発展の機会となりますことを願っております。

来年の2027サマーシンポジウムは，7月8，9日にタワーホール船堀で開催いたします。

橋本光紀（医薬研究開発コンサルテイング代表取締役，創薬パートナーズ　パートナー，日本プロセス化学会　顧問・編集委員，理学博士）

© 2026 The Chemical Society of Japan